

## 校内研修で学校再開に備える



校内研修も3密に気をつけて…

臨時休業期間中、感染症対策の一環として職員の在宅勤務が行われました。その一方で、学校再開に備えて校内研修の時間を設定して研修を行っています。

第1回は、学習にかかわる脳内活動において中心的な役割を担う「記憶」についての学習会でした。「短期記憶」と呼ばれる情報の一時的な保管が苦手な子どもたちの脳で何が起きているのかを知り、それらの問題を補う「読み・書き・計算」の指導について学び、

合理的配慮についての理解を深めました（5 / 12）。

第2回目は、対人コミュニケーションスキルの育成に効果的な SST（ソーシャルスキルトレーニング）の研修です。SST の理論や具体的な実施方法を学び合います。SST を学級で子どもたちに行うためには、教師自身が SST を体験しトレーナーとしての素養を身に付ける必要があります。座学や読書だけではうまく実践できないことが、期待される SST の効果の割に実際に学校現場で行われていない背景にあると見ています（5 / 28 予定）。先生方は学校再開後の指導に生かそうと、臨時休業という想定外の時間を有効に活用した校内研修に熱心に取り組んでいます。

## 意外とむずかしい「新しい生活様式」

新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策の一環として、「新しい生活様式」が示されました。学校生活においても実践させなければならないわけですが、意外とむずかしいことが分かってきました。特にソーシャル・ディスタンスと呼ばれている 1～2 m の間隔を空けることですが、子どもたちは、自然と数人で群れてしまいがちです。学校では、廊下や水道場に適切な間隔を示す足形を設置するなどして、感覚的にも覚えられるように準備を整えています。一方で、無意識に密接になりがちな子どもたちに「離れなさい」と細かく指示や注意をすること（しなくてはならないこと）について、教師として多少抵抗感を感じているのも事実です。スキンシップや触れ合うことで安心感を感じる子どもたちがいることを知っているだけに、悩ましいところです。学校再開に併せて新型コロナウイルスについて学習する時間を



間隔を上手に取りながら教室移動をする子どもたち

設ける計画ですが、「長いつき合いになるので焦らないで、少しずつ確実に実践できるように指導しよう。」と話し合っています。ワクチンができるまでの間、もうしばらく知恵を出し合いなら生活していこうと思います。ご家庭での様子はいかがですか？